

2 患者と家族を支える看護の機能 看護管理看護教育

申請者氏名（代表者） 金城 祥教		所属部門	人間健康学部看護学科		
企画名 患者・家族を支える看護の役割について — 総合病院における看護相談事業の開拓から現在まで—					
<p>企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）</p> <p>インフォームドコンセントの普及と共に患者や家族に治療や検査の意思決定が委ねられ、多くの患者・家族はその行き場のない不安に圧倒されていた病院の現状に一人のナースが立ち現われた。看護相談という小さな標識を立てたデスクとイスが用意された。そのデスクの前で寄り添う人影が行き交い、引き寄せられるかのようにそのイスに誘われていった。リエゾン看護という言葉さえない時代の話です。離職を思い立った看護師、疲れきった体でそのイスによりそって話を聞いてもらった。若い医師は患者・家族の苦情に圧倒され、ふらついた足元をそのイスはしっかりと支えてくれた。</p> <p>聖隷浜松病院は地域の人々の生命を守ることをミッションとして数十年の歴史をもつ総合病院です。脳神経外科や心臓循環器の専門病院として発展し、更にNICUや周産期センターの創設など生命科学など常に先端医療を担ってきた病院です。その聖隷浜松病院の光と影を一人のナースは病院と共に歩んでこられました。看護総合相談を担当されている山内はるみさんはご自身も難病を患いながら多くの患者さんやご家族の支えとなって、それに多くの看護師はじめ医療職者の相談にも携わってこられました。今回 北部地域の看護職とりわけ看護管理者を対象として「患者・家族を支える看護職の役割について」と題して講演会を開催しました。</p> <p>この北部の病院でも患者・家族を対象として看護総合相談が増えてきたことから地域のニーズに仮かなった企画となりました。</p>					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
金城 祥教	人間健康学部看護学科	総合看護	運営・司会進行	代表者	
伊礼 優	人間健康学部看護学科	精神看護	企画書作成		
企画実施報告（参加人数等を明記）					
<p>実施日：平成 25 年 7 月 19 日（金） 18：30～20：20</p> <p>参加人数：53 人</p> <p>医師をはじめ病院関係者が抱える患者家族とのトラブルや悩みについてコンサルティングを実践されてこられた豊かな経験を通してのお話は、多くの看護者・家族の共感を生み、またエイズ患者と共に生きる山内さんの看護職としての使命感は多くの学生にも感銘を与えた。</p> <p>参加者からは、貴重なご意見・ご要望等があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が相談する意思が重要であることが大変参考になった。 ・病気をベースに理解することを基本に通常業務にあたりたい。総合看護相談は奥深く、再度聴く機会を得たい。 					

- ・患者に寄り添う看護師の在り方について色々学ばせて頂きました。
- ・患者・家族・医療スタッフの思いを支える事の大切さを知りました。多種多様な思いに寄り添う事とても大事だと思います。「看護が機械的になり、相談件数が減っている」「現場の看護の質が落ちている。」とても印象的な言葉でした。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

県立北部病院や医師会病院など地域の総合病院ばかりでなく、クリニックにおいても看護職の相談機能は増加してきており、看護相談のスキル(技術)というより専門的な看護の技能を高めていくことの意義が理解できたかと思う。また看護管理者は若い看護職へどのように向き合うべきか、また相談機能のなかでも看護職として生きる意志をどのように育てていくのか、現任教育の進め方など多くのヒントが得られたものと思われる。

一方、病気とたたかう患者や家族をどのように支えていくのか、看護の役割としても大変重要な機能として大学院教育などに専門看護師を誕生させてきたが、しかし臨床現場におけるジェネラルの看護師としても学ぶことが多かったと思う。

山内さん自身は専門看護師の認定を受けてないが、聖隷浜松病院の専門看護師としての認定資格を持って業務に当たられている。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

この地域における看護総合相談は今後もますます重要性をましてきており、具体的な相談技術に関する研修回も今後は必要とされるものと思われる。



写真:「患者・家族を支える看護の役割について」

講演者 山内はるみ 氏(聖隷浜松病院)